

## Smart Times

「24時間、365日スマートフォンで医師に相談できる」という医療相談アプリケーションがスタートした。医師の伊藤俊一郎さんが立ち上げたドクターシェアリングアプリ「LEBE

R（リーバー）」だ。利用者はスマホで選択式の問診に答え、フリーテキスト記述や画像・動画での相談もできる。最速3分で医師が症状と疾患を絞り込み、疑いのある疾患についてコメントする。遠隔診療

インターウォーズ社長

吉井 信隆



1979年リクルート（現リクルートホールディングス）入社。首都圏営業部長などを経て95年にインキュベーション事業のインターウォーズを設立。社長に就く。日本ニュービジネス協議会連合会副会長。

ではなく、症状に見合った関に行くことが多い。大衆薬や全国の医療機関を推奨する。いつでも、どこでも医師に気軽に健康相談ができるオンライン上のプラットフォームサービス。症状ならばスマホアプリで

医師に呼び掛けた。医療の課題解決を視野に入れた革新的なドクターシェアリングアプリである「リーバー」は、趣旨に賛同した医師の実名登録数が110人を超え、日本最大級の実名医師による医療相談サービスプラットフォームとなった。病气やけがの治療で医療ターフェース時代が目前に迫ってきた。

をかけるには、不必要な通院を減らさなければならぬという状況だ。近年は厚生労働省でオンラインによる適切な「遠隔医療」の検討が話題になっている。2020年から次世代の高速通信規格「5G」が始まる。あらゆるものがデジタル化し、オンラインが主流になる。現在の5Gを

## アプリで進む未来の医療

現在実施されている5Gを使った遠隔診療

だ。リリース以来、すでにユーザー数が8000人と急拡大している。リーバーの開発は高齢化を背景に医療費が増大し、このままだと医療崩壊するという伊藤さんの思いからスタートした。0歳から50歳までの基礎疾患のない人たちは、軽症でも自己負担が少ないので安易に医療機

問診を受け、医師のアドバイスを得ることで、常に混雑している医療現場を改善できる」と語る。そして「大衆薬を使うセルフメディケーション、セルフケアで、費用が増えていくと、財政破綻の一因になりかねない。国民皆保険制度で当たり前のように安心して病院を診察することが、将来は成り立たなくなる可能性がある。医療費の増加に歯止めをかけるには、不必要な通院を減らさなければならぬという状況だ。近年は厚生労働省でオンラインによる適切な「遠隔医療」の検討が話題になっている。2020年から次世代の高速通信規格「5G」が始まる。あらゆるものがデジタル化し、オンラインが主流になる。現在の5Gを